

1. 本園の教育目標

・たくましい子 思いやのある子

2. 本年度重点的に取組目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	評価	取組み状況
1. 幼児教育要領の改訂を踏まえ、遊びを通して総合的な指導を行う上で、幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育みたい姿」をふまえた指導の状況	A	一人ひとりを理解することで育ってほしい姿が見え特に年齢の低いクラスでは、個々に応じた援助や発達を促す時期に合った活動を提供できた。10の姿を意識した活動を取り入れ、子どもの姿を拾い上げ見守ったり援助することで友達と育ち合い意欲的に過ごす。環境設定を工夫したり関わりの方、また教諭間での連携を強化する為園内研修を多く持ったが、有効な時間の取り方や内容に関して課題が残る。
2. 遊びを通して総合的な指導を行う中で幼児に適した環境が整備されているか、安全状況に対する取組み状況	A	・コロナウイルス感染予防対策に手洗い、消毒、うがいの励行に努める。また定期的に除菌作業を行う。 ・年齢に応じた遊びや動線を予測して、危険回避に努める。また予測することで迅速に対応できた。 ・子どもの感性に響く環境を考えた遊びや活動を展開する中で、園内の危険箇所を知らせ、安全に対する意識を高めることができた。 ・毎月の避難訓練を通して災害や緊急時に対する対応の仕方を体得する。教諭間で判断基準やキャリアの違いにより意識に違いがあるため、ルールやマニュアル化していくことも必要。 ・避難経路になるテラスの定期的清掃。園改築に向けて清掃、不用品の廃棄をする。
3. 一人ひとりの幼児の発達の特性を理解し、教職員間で周知と発達に即した指導の取組み状況	B	・個々に寄り添った関わり、声掛けが出来た。 ・支援の必要な子どもや気になる子どもに関しては会議や研修を通して情報を共有し、援助の仕方を話し合う。(長期的対応、早急対応、保護者対応) ・関係機関との連携により見通しをもった関わり方が出来た。 ・保育教諭間の連携を強化することで発達に合わせた遊びの提供や生活習慣の確立に対して共有できる目安を作っていきたい。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育を実践することが出来た。避難訓練での確実な成果を実感することができた。課題も明確となり、日々の園生活に活かされる。

5. 今後の課題

課 題	具体的な取組み方法
1 園内研修	「10の姿」を意識した活動を取り入れたたり、子どもの姿から10の姿を拾い上げ、保育教諭間での連携を強化したい。保育教諭間でのキャリアの違いや判断基準など教諭間の情報交換や意見交換により共通理解を図りたい。
2 安全管理	コロナウイルス感染対策を日々怠る事なく安心して過ごせる危機管理マニュアル等を理解し、意識の向上や改善を図る。
3 環境	園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実するように幼児の発達に沿った環境構成に取り組む。

6. 学校関係者評価委員会の評価

保護者アンケートの結果から、多様な保護者の価値観をすり合わせ、折り合いを付けて行く事の難しさや、幼児期に大切な遊びや関わりが育ちに大きく影響することが分かりました。教職員の自己評価に対して教育課程に基づいた運営の質については概ねA評価を頂く。今後、新しい生活様式の中で、子ども達の最善の学びについて考えながら、具体的活動を展開していけるよう、また園の改築・存続のために、必要なことを考え園運営されることに期待がよせられた。